
ふすまの鍵と僕の成長

キイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふすまの鍵と僕の成長

【Nコード】

N8181D

【作者名】

キイ

【あらすじ】

父さんはいつも母さんと真剣な「話し合い」をするときにふすまに鍵をする。僕の背が伸びても、僕の理解力が深まっても。そして僕は、世界を平和に出来そうにない。

僕の家はふすまで部屋が仕切られていて、部屋数は二つと三人家族には少し狭い。

ふすまには鍵など無いが、ふすまとふすまの間の上の方に雑誌か何かを丸めて詰めれば、鍵の出来上がり。当時幼かった僕にはその鍵を開ける術なんて無かった。

鍵をするのは、父さんで。母さんと二人で真剣な話し合いをするみたいだったから、僕は一人でテレビを見ていたり漫画を読んだりしていた。その頃僕はたったの六歳で、寂しいと感じてはいた。でも、寂しいと言ったら母さんが困るのも、申し訳なさそうに笑うのも知っていて、僕はそれが嫌でふさぎこんだ。

僕は十三歳になった。背は、もうふすまの一番上に手が届く程の高さになっていて。

それでも父さんはまだ壊せる鍵を作っていた。

「僕の背が伸びたことに気付いていないのかな」

ありえない。そんなことを思いつつ、唇の隙間からもれた言葉。

まだ、そんなには経っていないかな。初めて鍵をされたあの日から。でも大分経った気もする。たったの七年、大きな七年。

僕はもう理解していた。何をって、このふすまの向こうでの状況を。

怯えながらすすり泣く声と、苛立ちを抑える溜め息と。少し大きな物音と。それからたまにする、情けない怒鳴り声。

おもむろにそれが終わると、何もかもが平和になって、世界中が

平和になつたんじゃないかと僕は錯覚する。

「話し合い」が終わつた後の父さんは優しい笑顔だったし、母さんは父さんの後ろで微笑んでいたし。

それが僕には嬉しかったけど悲しかった。僕にももう解るんだよ、父さんの手に力が入ってるのも、母さんの目が少し赤いのも。

だから僕も笑ってるけど泣きそうなんだ。

いつも止めに入ろうと、その鍵を壊そうと腕を伸ばしては縮める。

今日も鍵を外せない。

今日も世界中が勝手に平和になつて。

僕には世界を平和に出来そうになかった。
この手はとつくにそこに届いていたのに。

(後書き)

短いですね。キイの書く物は全部短い(汗)
ジャンルも分ならずその他に。

読んで頂いてありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8181d/>

ふすまの鍵と僕の成長

2010年10月21日02時17分発行